

いわて便り

No. 16

2017年11月15日発行

11月号

日本生協連
組合員活動部

仮設住宅のみなさんと懇談したときの声をです

◆「ふれあいサロンは本当にありがたい。全国の生協のみなさんに感謝しています」 ◆「仮設から出られると期待していて、宅地造成が遅れる話を聞くとがっかりする」 ◆「仮設住宅集約で、仮設から仮設の引越をしなければならない。早く家ができないかな」



第7回宮古復興応援生協まつりが開催されました

「生業づくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」として、11月3日宮古市のマリンコープDORAで「第7回宮古復興応援生協まつり」が開催されました。沿岸部で復興に向けてがんばっているメーカー43社と全国の生協から、共立社・おおさかパルコープ・鳥取県生協の3生協が出店し、ご当地の名産品を販売され



ました。当日は天候に恵まれ7,000人ほどの来場がありました。出店したメーカーは「このような機会でも、たくさんの人に商品知ってもらいたい」と喜ばれていました。

また、出店された3生協は当日の売上の中から「くらし・地域復興応援募金」にもご協力されました。



生協ひろしま「お好み焼き隊」が陸前高田市、岩泉町で活動

10月9日～10日、生協ひろしまのお好み焼き隊(職員、組合員6人)が岩手県で活動しました。

9日は陸前高田市にある県内最大の災害公営住宅「県営柗ヶ沢アパート」で、10日は今年の台風10号で大きな被害を受けた岩泉町のコミュニティ施設「サンパワーおおかわ」で、お好み焼きのお振る舞いを実施されました。本場のお好み焼きを初めて食べた方も多く、みなさん「おいしい」と笑顔に。こうした外部からの企画がほとんどなくなり、参加者には大変喜ばれました。





震災を忘れない取り組み

秋のコープのつどい

いわて生協では、10月～11月に岩手県内の390か所で、地域ごとに集まり商品や生協の取り組みについて話をする「秋のコープのつどい」を開催し、5,600人が参加しました。つどいのテーマのひとつ「東日本大震災から6年半・・・被災地の今」では、被災地の現状を12枚組みの写真を使い報告しました。震災から6年半が過ぎ、広い岩手県では内陸と沿岸部の温度差も感じられる中で、復興は道半ばであることを確認し、「自分ができる支援」について改めて考えあいました。



今回作成した、岩手県の「被災地の今」の写真(12枚組 A2版)の在庫が若干ございます。活用いただける生協には、無償で提供いたします。いわて生協 組合員活動チーム(電話019-603-8299)までご連絡下さい。品切れの際はご容赦下さい。

復興応援ツアー

岩手郡コープ(地域)では10月3日、組合員42人で陸前高田へ復興応援ツアーに出かけました。気仙大工伝承館では、「震災当日、高台にある伝承館からは広田湾が一望でき、祈るような気持ちで見ていた」といったお話などをお聞きしました。その後、陸前高田市内をバスで回り、復興の様子も確認しました。盛り土があまりにも高く、また地震や大雨で崩れないか心配でした。参加者からは「まだまだ忘れていないよ!」「復興に向けて自分にできる支援をしていけたらいい」といった感想が寄せられました。



岩手県の復興状況が発表されました

岩手県は11月7日、東日本大震災の沿岸被災地などの社会資本の整備状況をまとめた復旧・復興ロードマップを公表しました。9月末現在、完成時期が遅れる整備箇所は新たに防潮堤や道路関係など70か所で、うち2年遅れは前回公表(3月末現在)の7か所から新たに25か所と大幅に増加しました。1年以上の遅れは新たに47か所で、前回公表の21か所を上回りました。遅れる70か所は遅くとも2020年度末までに完成する見通しです。

9月末時点の応急仮設住宅の入居者数は釜石市2,427人、大槌町1,709人、陸前高田市1,615人、山田町1,540人、大船渡市523人です。内陸部を含む20市町村で9,000人の被災者がまだ仮設住宅での生活を続けています。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池、住吉